

平成 22 年度事業報告

I 一般会計事業報告

(第 27 年度)

平成 22 年 4 月 1 日から
平成 23 年 3 月 31 日まで

世界各地では、地球温暖化が主な原因とされる気象異変や災害が多発し、温暖化物質である二酸化炭素の吸収源として、森林への関心が世界的に高まっています。

また、本年は「国際生物多様性年」に当たり、日本において生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)が開催され、国民の森林づくりへの関心が一層高まりました。

一方、森林に対する国民のニーズは、国土の保全、水源のかん養、木材の生産、地球温暖化の防止、また生物多様性の保全、環境教育や心身の健康づくりの場としての利用など、多様化してきており、こうしたニーズに的確に応える森林づくりが求められています。

当基金においても「長野県ふるさとの森林づくり条例」の具体的な指針である「森林づくり指針」に基づき、森林や身近なみどりづくりを行政・NPO・地域住民との様々な形での協働で進め、多くの県民参加のもと、地域の実情やニーズにあった事業の展開に努めるとともに、ボランティア活動、学校林活動など実践的活動に重点をおいた事業の推進を図りました。

また、平成 20 年 12 月の公益法人制度改革に伴う新たな公益法人への移行申請事務につきましては、昨年 12 月に「公益財団法人長野県緑の基金」への移行認定申請を行いました。

平成 23 年 3 月 31 日付けで財団法人長野県緑の基金の解散登記を行いました。

1 森林・林業及び環境緑化普及啓発事業

森林・林業及び環境緑化に対する県民の更なる理解を深めるため、次の事業を実施した。

(1) 情報誌・ホームページ等による広報・普及宣伝

ア 情報誌などの発行

基金業務、森林・林業及び環境緑化等について、県民の理解を深めるため、4 月の緑化シーズンに併せ、信濃毎日新聞紙面を利用したグリーンキャンペーンを行うとともに、機関誌の発行(2,000 部)、緑化・育樹ポスター等の配布を行った。

イ 緑の情報サービスの推進(ホームページによる情報発信)

県民参加による森林づくりを推進するため、森林・林業に係る各種行事、「森の恵み、地域の恵み再発見」や巨樹・古木の絵本の PR、募金の使途報告、基金の事業・決算など、ホームページを用いて情報発信し、森林づくりへの実践参加を促進した。

また、ホームページの全面見直しを行うとともに、新しい情報が随時発信出来るように改訂した。

ウ 巨樹・古木をテーマにした絵本作り

緑と水の森林基金事業(国土緑推)の助成を受け、巨樹・古木をテーマに年間 1 冊のペースで「木が伝えてくれる物語」の絵本を 5 冊発刊することとして取組んでいる。

本年度は「神戸の乳房いちょう」（飯山市）の調査（4冊目）し、「うえんじいさまのき」（塩尻市）を2,000冊印刷（3冊目）販売し、巨樹・古木が伝えてくれるメッセージを子どもたちに届け、環境教育の推進を図った。

（2）植・育樹等事業

ア ふるさとの森づくり県民の集い（第61回長野県植樹祭）の共催

5月29日に駒ヶ根市駒ヶ根高原及び宮田村黒川平において、長野県、中部森林管理局、駒ヶ根市、宮田村、上伊那山林協会、上伊那森林組合等の協力を得て、「森づくり豊かな地域の第一歩」をテーマに一般県民1,400人の参加により開催した。

イ 地区緑化推進団体による森林の感謝祭などの開催

国土緑化推進機構の「緑と水の森林基金助成事業」として、県下10地区において地区の実情に即し、森林の感謝祭、植・育樹など体験型の行事等を実施した。

（3）緑に親しむ集いの開催

森林とふれあい、様々な体験をすることによって、木に親しみを持つとともに森林についての関心が深まるよう主に親子向けの森林教室を長野県林業総合センター学習展示館と共催で行った。20回開催し、268組542名の参加があった。

また、森林・林業に関する知識を普及啓発するため、県植樹祭に併せ、林業士会、長野県森林インストラクター会等の協力のもと森林教室を開催した。

北信、東信、中信、南信地区より5台のバスを運行し、県内から169名の参加があり、自然観察会、山の手入れ方法・森の状況説明などの体験を通じ、森林・林業への理解を深めることができ好評であった。

（4）野鳥愛護思想の啓発

小・中学校を対象に、児童・生徒の野鳥を愛し、緑を育む心を養うため、野鳥観察、巣箱製作・架設など野鳥愛護の実践活動を行う小学校3校、中学校2校に対して、「信州の緑と野鳥を守る会」を通して助成した。

（5）森林整備講演会・研修会等の開催

森林を健全な姿で持続的に育成していくためには、長期的な視点を持ちつつ集約的な経営を行うことが重要であることから、先駆的な森林の管理経営を行う仕組みを紹介し、長期・持続的な森林経営の構築について県民の皆さんと一緒に考える「森林フォーラム」を長野県、林業関係団体等と共催で実施した。

・平成23年2月15日(火) 塩尻市「レザンホール」 220名参加

2 県民の健全な森林づくり等実践参加促進事業

（1）林業関係等コンクールの開催

ア ふるさとの森林づくり賞及び林業関係ポスター等コンクールの開催

森林づくり、森林環境教育、信州の木の利用などに優れた功績があった者の表彰並びに小・中学校、高等学校の児童・生徒への環境緑化思想及び野生鳥類の保護の高揚を図るためのポスター等コンクールを長野県、林業関係団体とともに開催した。

- ・ふるさとの森林づくり賞及び林業関係ポスター等コンクール(1月14日表彰)
長野県ふるさとの森林づくり賞 長野県緑の基金理事長賞 3名
林業関係ポスター等コンクール 長野県緑の基金理事長賞 17名

イ 木工作コンクールの開催

小・中・盲・ろう・養護学校の児童生徒を対象に、身近な木材を生かして夢を描き、自由な発想で創作することにより、子供たちの豊かな成長、木に触れ、ものを作る喜びを知ってもらうために、木工作コンクールを長野県木材青壮年団体連合会と共催で実施した。

- ・木工作コンクール 長野県緑の基金理事長賞 1名(11月3日表彰)

(2) 森林環境教育指導者研修会の開催

子どもたちに自然に親しみ森林の重要性など体験を通じて学んでもらうことを目的に、南信地域の教職員等28人を対象に森林づくりの目的やチェーンソー等による森林施業実習の研修会を10月28日、茅野市内で実施した。

(3) 森林ボランティア支援事業

ア 森林ボランティア育成研修会

森林の管理意識の向上と安全な森林作業が実施できる体制を構築するため、森林所有者及び森林ボランティアの方等を対象に、長野県林業士、指導林家等の人材を活用して「林業経営講座」を県下10か所において長野県と共催で開催した。

- ・平成22年10月～23年2月(期間：4日間) 受講者 延べ438名

イ 信州の森林づくり応援団ネットワーク交流イベントの開催

森林づくりへの県民参加の裾野を拡げるため、森林・林業関係NPO法人等の活動情報を集約・発信していくネットワーク(長野県が構築)への登録を推進する交流イベントを長野県、林業関係団体等と共催で開催した。

- ・平成22年10月17日(日) 伊那市 「市民の森」 100名参加

(4) 学校林整備・活用推進事業

みどりの少年団等森林活動支援事業

児童・生徒が行う森林活動を普及推進するため、みどりの少年団等がNPOや地域の指導者等と連携し、林業改良指導員がコーディネータとなって新たに学校林整備などを行う県下7団体に助成した。

- ・茅野市立茅野金沢小学校
- ・長野市立大岡小学校
- ・小川村立小川小学校
- ・大町市立大町北小学校
- ・長野県若槻養護学校
- ・長野県更級農業高等学校

3 都市緑化等環境整備事業

(1) ゴルファーの緑化促進協力会受託事業（GGG緑化事業）

ゴルファーの緑化促進協力会(全国 370 社、うち県内 13 社)の協力金を受けて、協力ゴルフ場所在地を中心とした公共施設の緑化を実施した。

区 分	地 区	事業主体	実施場所・樹種
第 65・66 回	佐 久	軽井沢町	軽井沢町長倉 軽井沢町保健福祉施設「木もれ陽の里」 ツツジ、イチイ、ヤマボウシ (27 本)
		御代田町	御代田町御代田「雪窓湖公園」 ヤマブキ (350 本)

(2) 学校環境緑化推進事業

国土緑化推進機構の助成を受け、学校環境の緑化を通じて、青少年への森林環境教育を推進することを目的に、小・中学校敷地内及び周辺的环境緑化、環境教育のフィールドの整備（学校周辺林・学校林の整備、炭焼き釜設置等）を実施した。

助成事業名 ・学校環境緑化モデル事業（ローソン緑の募金）

・下伊那郡阿智村 阿智村立浪合小中学校

(3) 緑の相談窓口事業

巨樹、古木などの衰弱や病虫害に対する県民の要請に応えるため、県造園建設業協会主催の「街路樹の日推進大会」に共催し「緑の相談窓口」を開設した。

・平成 22 年 10 月 12 日（火） 長野市若里市民文化ホール 70 名参加(相談者 7 名)

4 その他

(1) 国土緑化運動・育樹運動標語の募集

県下各地の小中学校・高等学校等より応募（139 点）のあった中から 10 点を推薦した。中央審査（応募総数 313 点）の結果、平成 23 年度標語に、次の 2 点が特選に選ばれた。

国土緑化運動標語 「植樹から めばえる命 育む未来」(秋田県小4)

育樹運動標語 「地球いっぱい 育て 広がり 豊かな緑」(群馬県小6)

(2) 森の名手・名人の選定

国土緑化推進機構が毎年選定を行っている「森の名手・名人」に、平成 22 年度は全国で 81 名が選定された。

うち長野県から 4 名の方が選定され、県内の名手・名人は 36 名となった。

氏名	年齢	市町村	内容
有賀 恵一	60	伊那市	建具・家具づくり
伊東 修	81	伊那市	炭焼き・炭窯づくり
川上 繁	62	塩尻市	シイタケ栽培
関口 近夫	75	長野市	炭焼き

(敬称略)

(3) 新公益法人への移行

平成20年12月民間非営利部門の活動の健全な発展を促進し民による公益の増進に寄与するとともに、主務官庁の裁量権に基づく許可の不透明性等の従来の公益法人制度の問題点を解決するため、公益法人制度改革が行なわれ新公益法人制度が施行された。従来の公益法人は、平成25年11月末の移行期間の終了までに新公益法人への移行申請が必要となった。

当基金としては、「特定公益増進法人」の更新認定に当たり、財務省から次期更新時(平成23年11月)までに新たな公益法人への移行申請を行なうよう指導があり、平成22年度中に新たな公益法人の認定が得られるよう事務局の体制を充実し取組んだ。

・平成22年12月27日 公益財団法人移行認定申請

5. 運用益

世界的な金融危機で輸出産業の生産が停滞、個人消費や雇用情勢の急速な悪化、更には欧州の財政問題など世界同時不況が与えた痛手は大きく、ドル安・円高、超低金利、デフレの進行などが急速に進み株式市場においても、当分の間、景気の回復が不透明な状況に陥っている。

平成22年度は、寄付金に係る小口定期預金額が一定の額となったので、一口にまとめ300万円を5年国債に運用替した。受取利息収入については当初予算5,673千円と見積りしたが、1ドル80円代と当初見通し(90円/ドル)を超える状況で円高傾向が続いたこと等から、決算額は4,789千円となった。

6 出捐金等の内訳

平成22年度末	5億8,852万5,406円
(対前年度増加額)	125万7,125円)
<内訳>	
・長野県	150,000,000円 (25.5%)
・市町村	123,000,000円 (20.9%)
・民間	315,525,406円 (53.6%)

Ⅱ 特別会計事業報告

「長野県ふるさとの森林づくり条例」の基本理念である「県民総参加」を念頭に、「緑の募金」運動を積極的に展開し、森林づくりと緑づくりの大切さの普及啓発に努めました。

また、4月1日から5月31日までの「緑化推進特別強調月間」を中心に緑を守り育てる緑化意識の高揚に努めるとともに広報等を通して緑の募金活動を積極的に推進しました。

更に、「緑の募金による公募事業」を広く周知し、地域における自発的な森林づくりや身近なみどりづくり、間伐材の利活用、森林環境教育などの活動を推進するとともに、次代を担うみどりの少年団の学習実践活動に対して支援しました。

募金推進の環境は、世界同時不況による個人消費や雇用情勢の悪化、円高、デフレ等が進み、加えて長野県森林づくり県民税導入など大変厳しい状況下にありましたが、各地区緑化推進団体や市町村をはじめ多くの皆さんの御努力により、募金総額 82,278 千円（対前年比 99.4%）とほぼ前年度並みの成果を得ることができました。

（詳細は別紙 1、2による）

1 森林の整備事業

（1）森林の整備支援

森林整備に対する県民の意識の向上と理解を深めるため、森林整備に要する苗木・作業用具の購入、指導者の謝金、傷害保険等の経費に対して交付金を交付し、植栽、下刈、枝打ち、除間伐など実施した。

・実施箇所 30箇所、整備面積 57ha

（2）森林整備講演会・研修会等の開催

森林づくりの重要性、地球温暖化防止に係わる森林の役割等を周知させるため、各地区で行われた講演会・研修会の開催に要する会場使用料、資料代、資材購入、講師謝金、傷害保険等の経費及び山火事防止の広報活動、松くい虫予防活動等に交付金を交付した。

・実施箇所 21箇所、参加人員 1,831人

（3）緑の募金公募事業

特定非営利法人及び募集要領の要件を満たす団体の地域や社会ニーズに基づいた環境緑化、森林の整備、木材の利活用及び野生動物との共生など自発的・公益的な活動を促進するため、「緑の募金」を活用した公募事業を募集したところ、19団体から 3,461 千円の応募があり、運営協議会等で審査を行い 1 事業につき 20 万円を限度に、17 団体に総額 2,991 千円を助成した。（詳細は別紙 3による）

2 緑化の推進事業

(1) 学校校内環境等の緑化

学校校内環境の緑化、学校林の整備等のため、苗木や作業用具購入、指導者謝金等の経費に交付金を交付した。

・実施学校 60校 苗木本数 1,227本(ミニバラ、ツツジ、カリン、サツキ他)

(2) 公園等施設の緑化

公園、公民館、福祉施設等の公共施設の環境緑化を図るための苗木購入、作業用具購入、指導者謝金等の経費に交付金を交付した。

・実施箇所 188箇所、苗木本数 12,617本(ウメ、ツツジ、モミ、ソメイヨシノ、ブナ他)

(3) 苗木の配布

生活環境の緑化や緑に対する関心を高めるため、県下各地で開催される緑化木頒布会等の苗木等購入経費に交付金を交付した。

・実施箇所 129箇所、配布本数 52,715本(ウメ、ツツジ、サツキ、イロハモミジ、ヒノキ他)

(4) 植樹・育樹祭等の開催

森林づくりに対する意識や緑を守り育てる緑化意識の高揚に努め、積極的に緑づくりへの参加を促進するため、地区緑化推進団体や、市町村等で行う植樹・育樹祭等行事の開催に必要な経費に交付金を交付した。

・実施箇所 296箇所 苗木本数 33,390本(カラマツ、ヒノキ、ツツジ、コナラ、ケヤキ他)

(5) コンクール・講演・研修会等の開催

森林・林業のPR及び緑化思想の普及啓発を図るための各種コンクール及び緑化功労者の表彰式等が県下11会場で開催され、それに係る経費に交付金を交付した。

(6) みどりの少年団の育成

次代を担う少年たちを、自然とのふれあいを通じて緑を愛し育てる心を養い、人間性豊かな健康で明るい子供達に育むため、県下178団のみどりの少年団が実施する森林・環境緑化等の学習実践活動に対し、長野県みどりの少年団連盟を通じて助成し、また、地区事業として実施する少年団の実践活動に対して交付金を交付した。

また、少年団活動の一層の活性化を図るため、県下の少年団のリーダーを対象に長野県みどりの少年団交流集会を開催するとともに、緑の少年団全国大会へ県下の少年団を派遣した。

- ・長野県みどりの少年団交流集会(長野市青少年錬成センター)
8月5～6日 参加者 20団 112名(引率者含)
- ・第21回緑の少年団全国大会(青森県)
7月28～30日 参加団 辰野南小学校みどりの少年団 3名(引率者含)

(7) 緑化推進の啓発宣伝

緑化思想の普及啓発のため、新聞各社への緑化広告の掲載、テレビ等によるPRを「緑化推進特別強調月間」(4月1日～5月31日)中に「小さな芽 届け未来へ 緑の力」のテーマで行った。

- ・新聞広告掲載 4月1日 7社掲載(朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、中日新聞、リンクイ新聞、日経新聞)
- ・テレビCM 信越放送 28回放送(4/1～4/7・4/28～5/4)
- ・街頭募金 5月4日(みどりの日)
長野駅前他市内8箇所において、高校生、協力団体の皆さん71名の協力を得て街頭募金活動を行った。また、各地区緑化推進団体においても、それぞれ街頭募金活動を実施した。
- ・着胸キャンペーン
緑の羽根、ピンバッジ着胸について4月1日高校生他で、知事、副知事に依頼した。

3 募金資材の購入

募金活動の効率的な展開を図るため、緑の羽根、家庭募金用封筒、募金箱等の募金資材の購入や募金PRのためのチラシの作成等を行った。

4 募金活動の推進

募金活動の円滑な推進・適正化を図るため、県、県現地機関、地区緑化推進団体等による募金活動推進のための合同会議を12月17日長野市内において開催し、各地区からの要望や次年度の事業方針等について協議した。